

県農産物の消費行動・認知度等に関するアンケート調査結果

農政課

1 調査目的

県民の皆さんの安全・安心な食生活について現状や意識を把握し、今後の施策の参考とするため、県民の皆さんの意見や感想を伺いました。

2 調査対象等

調査対象: 県政モニター818人(郵送モニター:282人 インターネットモニター:536人)

調査方法: 郵送及びインターネット

調査期間: 令和5年12月1日～12月22日

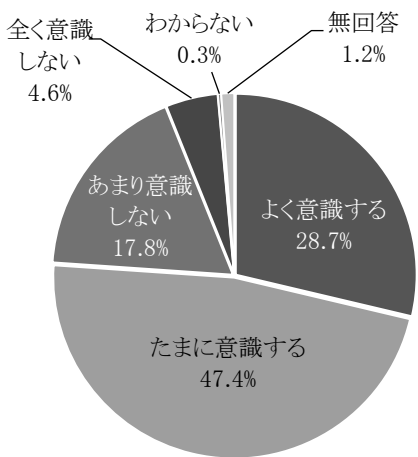
回収結果: 690人(回収率84.4%)

構成比はパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。

そのため、合計が100%にならない場合があります。

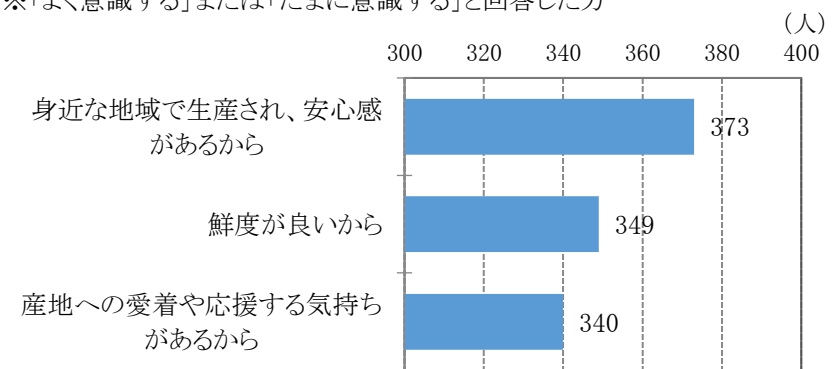
3 結果概要

○地産地消に対する意識

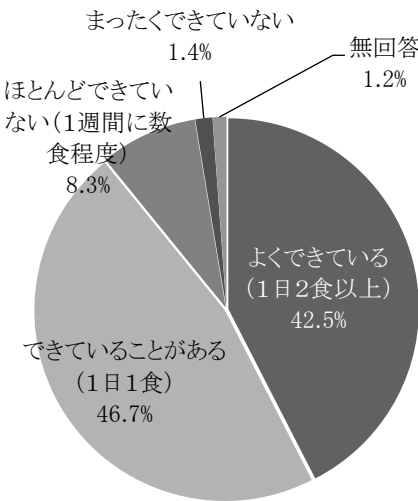


【意識する理由(上位3つ)】

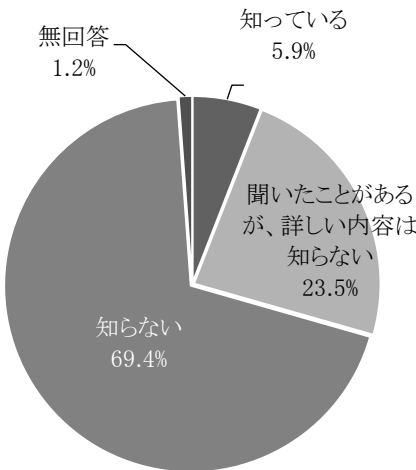
※「よく意識する」または「たまに意識する」と回答した方



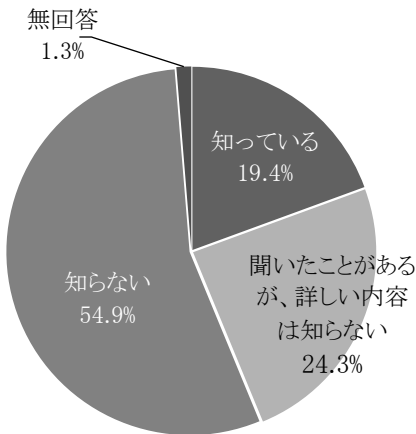
○バランスのとれた食生活



○ぎふ清流GAPの認知度



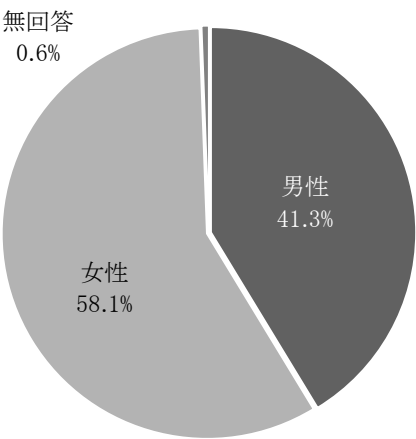
○世界農業遺産「清流長良川の鮎」の認知度



4 回答者属性

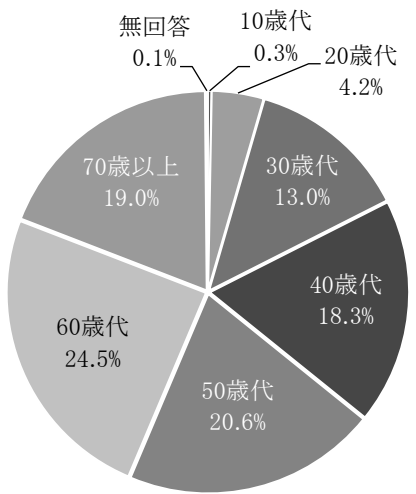
(1)性別

	人数	割合
男性	285	41.3%
女性	401	58.1%
無回答	4	0.6%
計	690	100.0%



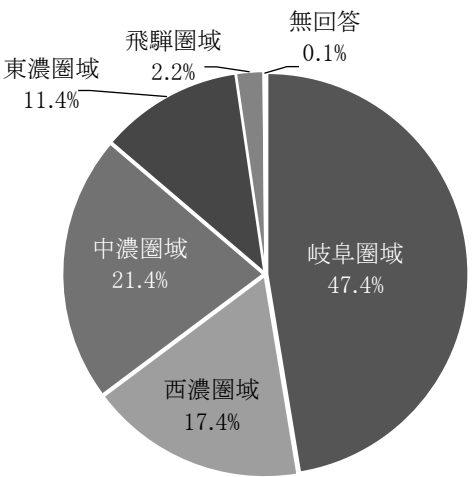
(2)年代別

	人数	割合
10歳代	2	0.3%
20歳代	29	4.2%
30歳代	90	13.0%
40歳代	126	18.3%
50歳代	142	20.6%
60歳代	169	24.5%
70歳以上	131	19.0%
無回答	1	0.1%
計	690	100.0%



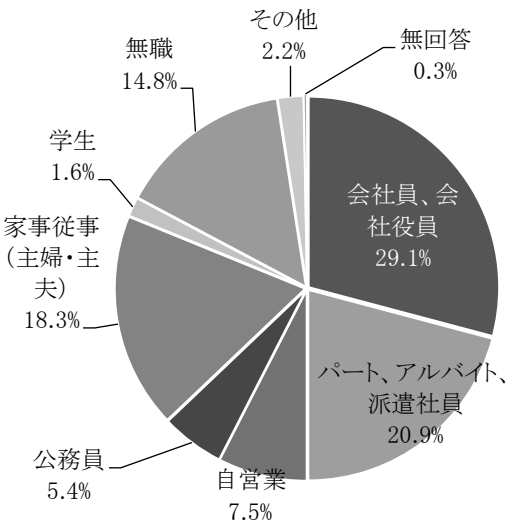
(3)居住圏域別

	人数	割合
岐阜圏域	327	47.4%
西濃圏域	120	17.4%
中濃圏域	148	21.4%
東濃圏域	79	11.4%
飛騨圏域	15	2.2%
無回答	1	0.1%
計	690	100.0%



(4)職業別

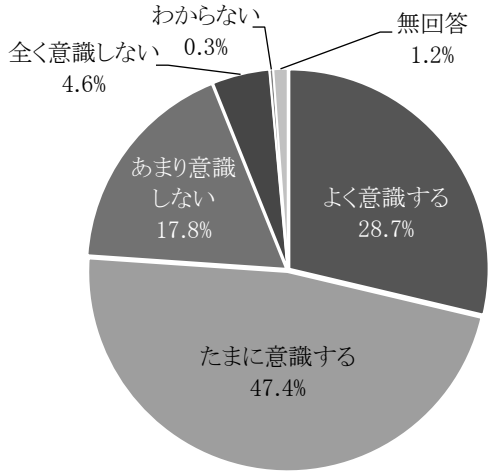
	人数	割合
会社員、会社役員	201	29.1%
パート、アルバイト、派遣社員	144	20.9%
自営業	52	7.5%
公務員	37	5.4%
家事従事(主婦・主夫)	126	18.3%
学生	11	1.6%
無職	102	14.8%
その他	15	2.2%
無回答	2	0.3%
計	690	100.0%



5 調査結果

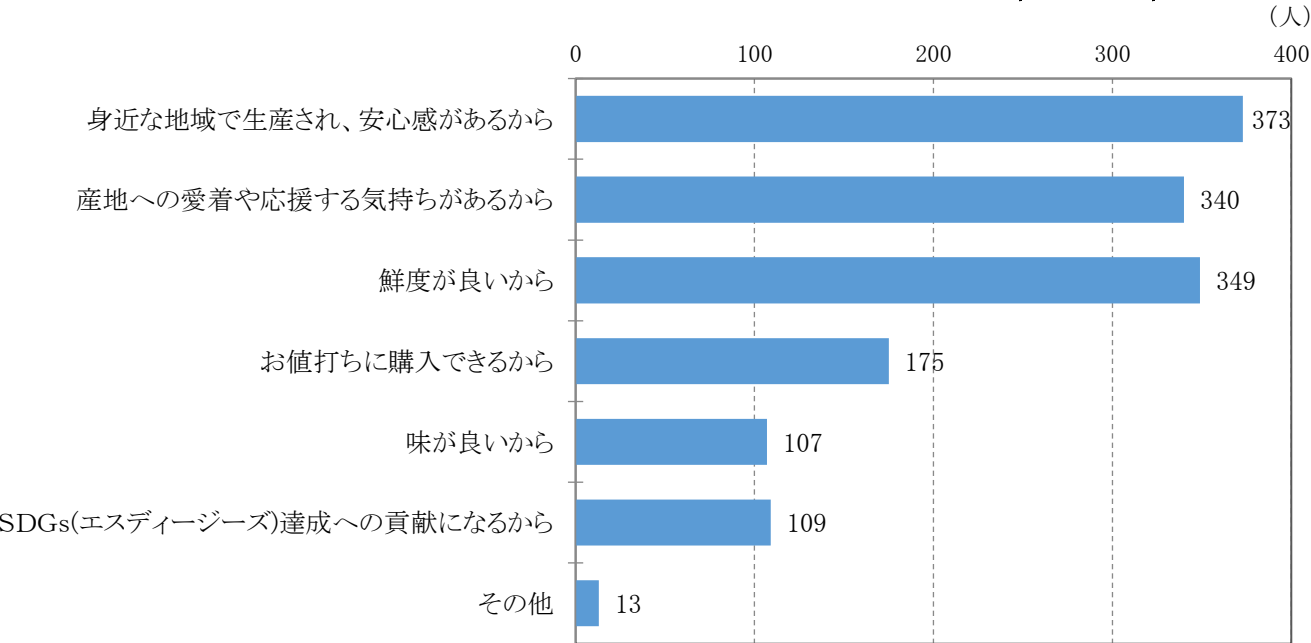
問1 農産物を購入するとき、岐阜県産のものを選ぶなど「地産地消」を意識していますか。

	人数	割合
よく意識する	198	28.7%
たまに意識する	327	47.4%
あまり意識しない	123	17.8%
全く意識しない	32	4.6%
わからない	2	0.3%
無回答	8	1.2%
計	690	100.0%



問2 (問1で「よく意識する」または「たまに意識する」と答えた方)
地産地消を意識して購入するのはなぜですか。 (複数回答)回答者525人

	回答数	割合
身近な地域で生産され、安心感があるから	373	71.0%
産地への愛着や応援する気持ちがあるから	340	64.8%
鮮度が良いから	349	66.5%
お値打ちに購入できるから	175	33.3%
味が良いから	107	20.4%
SDGs(エスディージーズ)達成への貢献になるから	109	20.8%
その他	13	2.5%
計(延べ)	1,466	-

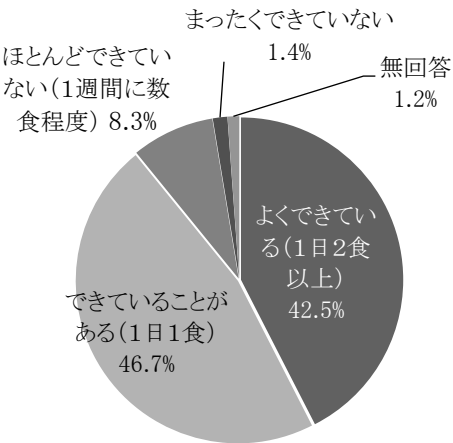


「その他」のうち主なもの

- ・何よりもおいしいから。新鮮なうちに食べることができるから。
- ・地域貢献、農業従事者の応援

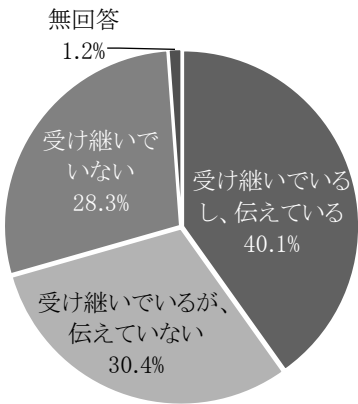
問3 主食、主菜、副菜を基本にバランスのとれた食生活を送っていますか。

	人数	割合
よくできている(1日2食以上)	293	42.5%
できていることがある(1日1食)	322	46.7%
ほとんどできていない(1週間に数食程度)	57	8.3%
まったくできていない	10	1.4%
無回答	8	1.2%
計	690	100.0%



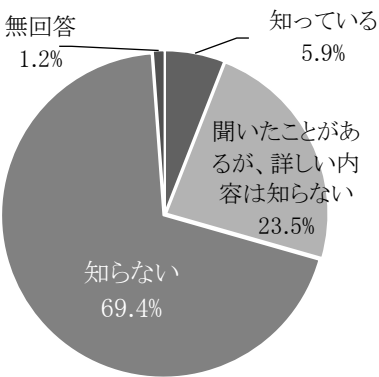
問4 郷土料理や伝統食など、地域や家庭に伝わる料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法について受け継いでいますか。また、地域や次世代(子どもやお孫さんを含む)に伝えていますか。

	人数	割合
受け継いでいるし、伝えている	277	40.1%
受け継いでいるが、伝えていない	210	30.4%
受け継いでいない	195	28.3%
無回答	8	1.2%
計	690	100.0%



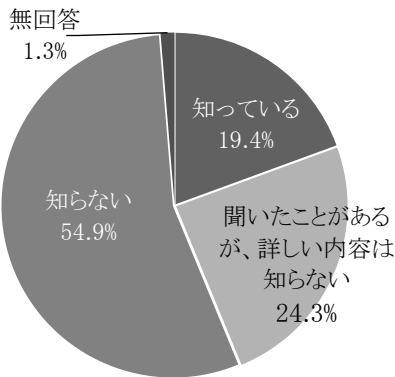
問5 「ぎふ清流GAP評価制度」あるいは「ぎふ清流GAP農産物」をご存じですか。

	人数	割合
知っている	41	5.9%
聞いたことがあるが、詳しい内容は知らない	162	23.5%
知らない	479	69.4%
無回答	8	1.2%
計	690	100.0%



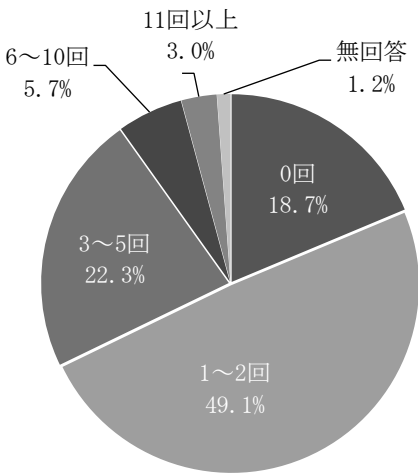
問6 「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に認定されたことをご存じですか。

	人数	割合
知っている	134	19.4%
聞いたことがあるが、詳しい内容は知らない	168	24.3%
知らない	379	54.9%
無回答	9	1.3%
計	690	100.0%



問7 あなたは、鮎料理を1年に何回程度食べていますか。

	人数	割合
0回	129	18.7%
1～2回	339	49.1%
3～5回	154	22.3%
6～10回	39	5.7%
11回以上	21	3.0%
無回答	8	1.2%
計	690	100.0%



問8 県農政及び安心安全な食生活に関してご意見などがございましたら、お聞かせください。
 (主な意見)

《安心・安全な農産物について》

- ・最近SNSでよく目にする添加物や農薬、情報が多くて何が本当に正しいのかわからない時があります。分かりやすく表示、一定量食べても体に害がない、安心安全、体に優しい食べ物を。
- ・野菜等に生産者名が示されていると何となく安心感がある。

《農産物の地産地消について》

- ・なるべく岐阜県の農産物が長く生産され続けて欲しいです。地元の産物を消費し、応援する！という考え方は学校教育などに取り入れて欲しいです。
- ・地産地消の生鮮食品商品をもっと気軽に購入できたら嬉しいです。スーパーマーケットやJAなど以外でも入手できる方法が増えると良いと思います。
- ・地産地消を行うために、郷土料理の方法などを広報することは重要であり、そのためのイベント等の開催も必要である。
- ・核家族化が進み、郷土料理どころか家庭の味、食べ方、作法といったものを次世代に伝える余裕が親世代にない。保育園、幼稚園から親を対象に出前講座をしてほしい。

《食料自給率・食料安全保障について》

- ・地産地消を行い、県内自給率を上げることが国の自給率アップにつながることを思われます。
- ・どんどん農業を引き継いでやる人が減っている様に感じます。
田畑は荒れ山間部は野生動物の出現。
もっと小学生の頃より子どもに農業体験をさせ、年齢にあった作業をして農業に関心を持たせる教育が必要だと思います。自給率を上げてこそ安全、安心な食生活が送れるのではないでしようか。

《農産物のPRについて》

- ・ぎふ清流GAP評価制度の目的は素晴らしいことですが、第三者機関が評価する内容が身近なところに配布されているかどうか分からないので、評価制度に関する内容を知れる手段もわかるようにしてもらいたい。
- ・上記質問アンケートの内容等について、県民が知る機会が極めて少ない。食と農の問題は関心が高いので、もっとPR、伝える方法を考えてほしい。

《その他、農政に関する意見》

- ・ 長良川に外来生物の流入の危機があるようなニュースを見た覚えがあります。観光資産でもある長良川と鮎を、外来生物から守ってほしいです。
- ・ 鮎は岐阜県の誇りであるので、アピールをさらにしていくと良いと思う。県外の人にも知れるように東京などにある岐阜県アンテナショップで鮎の魅力をもっと伝えたいと感じる。
- ・ 里山では獣害がひどく畑を作るのに重労働(柵作りなど)を強いられたり、作れなくなったりしています。地産地消どころではないと感じています。